

“あなたの地域の公共施設”再整備を全町的に取り組む

葉山町みんなの公共施設

未来プロジェクト 始まります



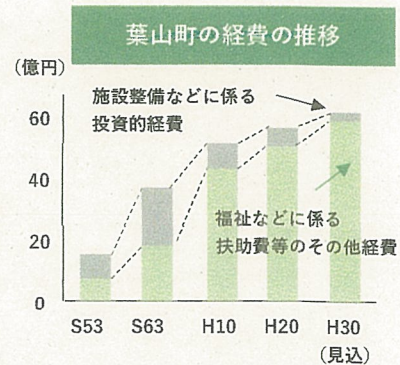
▲町役場庁舎は昭和59年に建築

町は昭和40・50年代の急激な人口増加等を機に、公共施設の整備を進めてきました。そして現在、**町内の公共施設の総床面積7割が建設後30年を越えました**。例えば町役場（築34年）や福祉文化会館（築30年）ではエアコン等の設備全般が旧式のまま、適切な温度管理ができないなど来庁者の皆さんにご不便をおかけしています。今後も施設を利用し続けるには1施設につき数千円から数億円の改修が必要です。

Q. なんで今、公共施設？

A. いよいよ大規模改修を。

しかし少子高齢化等により、町では子育て支援や高齢者福祉に関する歳出が増えていきます（右グラフ）。限られた予算の中で、公共施設の内容や再整備費用、時期をどうコントロールするかが大きな課題です。



時代に合わせて、公共施設の再配置や統廃合などを考え、未来への方向性を示す時期が「今」なのです。

Q. 葉山だけの問題？

A. 全国どこでも問題に。

施設再整備を考えるのは全

国どこでも同様で、自治体の99・7%が「公共施設等総合管理計画」を策定して動き始めています。町では平成28年度に計画を策定し、30年度から実施計画に基づいて計画的に進めています。今年5月には、庁内に施設等の中長期的なあり方を議論するための体制を作り、今年度は**主な施設の劣化状況や全施設の稼働状況などの調査**をしています。

Q. まずは何をやるの？

A. 皆さんとともに！

まだ課題の整理や方向性は決まっていません。今後この広報紙でのシリーズや町HPで皆さんにお知らせします。そして皆さんから意見を聴きながら、プロジェクトの具体的な目標を設定させていただきます。

問合せ 公共施設課

☎内線 341

『施設・人口と財源・まちづくり』

みんなの公共施設未来プロジェクトでは、「あなたの地域の公共施設」再整備を全町的に取り組むものとして、町の公共施設の現状をお知らせしています。今回は、施設の建設や運営に大きく関わる人口と財源、まちづくりについてお伝えします。



●町の公共施設は少なめ？

町の公共施設の総延床面積は約7・9万㎡で、一人あたり2・4㎡。町と人口規模などが似ている全国の自治体の平均3・7㎡より少なめです。しかし、「欲しい施設があるから」と増やせばいいのには「と考えるのはお待ちください。

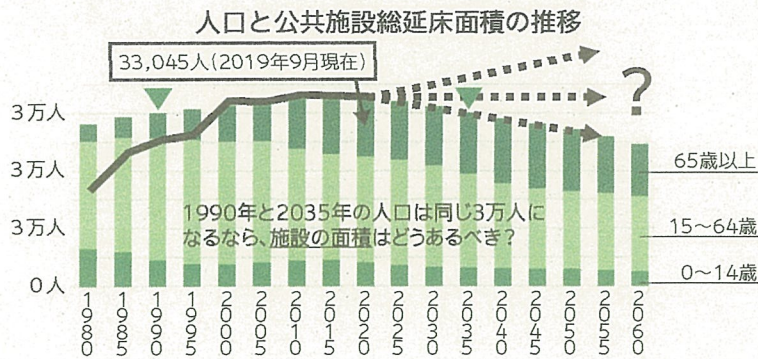
葉山町は、人口規模などが似ている全国の自治体と比べると面積が小さく、同じ施設を多く点在させる必要がないこと、施設を建設できる広い平地が少ないなどの事情が違います。

また、多く公共施設を持っている自治体は、今後その多くを減らす必要に迫られているのです。

●人口と財源が減ると？

これまで町では、人口増加などの必要に応じて公共施設を増やしましたが、建設費用

は増えた人口がもたらす税収の増加を財源にしていました。しかし町の人口は2013年にピークを迎え、現在は緩やかに減少し続けています。基本的には、納税者が減ると公共施設を維持するための財源も減ります。補てんする



ために借金を重ねるのは、健全なまちづくりを進める上で得策ではありません。人口が減少すれば、公共施設の面積も減らしていく必要があるのです。

●まちづくりとの関係は？

少子高齢化により、「主に税を負担する働く世代」と、「医療・介護などの行政サービスを必要とする世代」の人口規模は変わっています。それにより、公共施設に求められること・行政サービスに求められることも変わっていくことでしょう。

公共施設をただ減らすのではなく、使い方を変えたり、建物を改築したりして、ニーズに合わせる施設であり続けていく必要があります。

問合せ 公共施設課

☎内線341



葉山町の公共施設のこれからを考える

劣化と稼働 の状況

● 公共施設の顕著な経年劣化

町では、学校6校をはじめとする大きな施設を中心に14公共施設の劣化診断調査を昨年秋に実施しました。

結果は大変厳しく、ほとんどの施設で、建物の寿命に悪影響を及ぼす「屋上や外壁からの雨漏り」や「部材のはがれの恐れ」、「取り換え時期を超過した空調・電気設備」が確認されました。故障も多発しており、経年劣化が顕著な状態です。

その内、特に劣化や故障が頻発している箇所は緊急修繕が必要とされるため、早急に対応してまいります。

● 工事試算額は約260億円

劣化診断調査の結果を受けて修繕等工事を試算したところ、仮に14施設を30年間維持していくと想定した場合、年間約8・8億円、総額約260億円かかるという結果でした。

葉山町の一般会計予算は約100億円となっており、少子高齢化対策や道路・橋などのインフラの維持管理もしながら財政の健全性を維持する必要があります。今後数年間にはクリーンセンターや給食センター、下水道といった大規模な整備事業があり、それらを除く公共施設の修繕・設備更新に充てられる額は今後4年間で毎年2億円程度と見込まざるを得ません。

● 施設の稼働状況は4割弱

平成30年10月から昨年9月まで、各公共施設の部屋ごとの稼働状況（開館時間内）を調査しました。

各施設の平均稼働率は37・1%で、最低は5・4%でした。利用が少ない施設が多く、利用頻度の少ない日時がある現状も確認されました。

その一方で、町民の皆さんからはもっと施設が欲しいという声をいただきます。築年数が30年を経過した施設が多い中で、建設当初に設定された利用方法が、現在の需要に合っていないという課題も見えてきました。

● 皆さんと将来の公共施設を考えていきます

来年度は、様々にかつ大胆な仮説を立てて将来の公共施設についてシミュレーションをしていきます。

それまでにタウンミーティング等を通じて町民の皆さん

と公共施設のあり方について意見交換を重ね、今ある施設をただ直すだけでなく葉山町らしくあるため、どのような公共施設が必要となるのか。皆さんと考えながら、大きな転換期を乗り越えていきたいと思えます。

※Vol.1は8月号、Vol.2は10月号に掲載しています。

問合せ 公共施設課
☎内線341

